

マーベリー対マディソン事件

1 事案の概要

新設された治安判事のポストに指名されたマーベリー他3名が、辞令の交付を留保されたため、国務長官マディソンを被告として、裁判所法に基づいて辞令書の交付を求める訴えを、直接連邦最高裁判所に提起した。

連邦最高裁は、裁判所法が、辞令の交付を直接連邦最高裁に求めることができると定めている点は、合衆国憲法3条に反し、違憲であると判断した。

2 連邦最高裁の論理

連邦最高裁は、この中で、

司法権は、「この憲法…の下で生ずる…すべての事件に及ぶ」

裁判官は、司法権の及ぶ事件に法を適用するため法を解釈する

解釈にあたって2つの法が矛盾するときには、裁判官は優位にある法(憲法)を適用しなければならない

として、司法審査権は、具体的事件の枠内でのみ行使されるとの原則を示した。